

県外派遣報告書

審判員名	今野 和昭	所属	実業団連盟
大会名	平成29年度全日本実業団バスケットボール競技大会		
期間	平成29年9月9日(土)～11日(月)		
会場	神奈川県平塚市 ひらつかサン・ライフアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
9月9日(土)	男女1回戦	ひらつかサン・ライフアリーナ	
9月10日(日)	男女2回戦、準決勝、順位決定戦及び交流戦	"	
9月11日(月)	男女決勝、3位決定戦	"	
会議 講義 内容			
<p>※全体会議及び講義は実施されませんでした。</p> <p>実業団の全国大会は年に2回行われています。2月の大会はB級審判の講習会を兼ね、9月は上級審判中心の割当となっています。</p> <p>今大会は講習会という位置付けではありませんが、上級審判のレフェリング、試合前及び試合後のミーティングなどを「見て」「感じる」ことがB級審判にとって講習のようなものとなっています。</p>			
実技			
担当試合	期 日	9月10日(日)	男子 女子
	対戦カード	日立笠戸(中国) VS 丸紅(関東4)	主審 副審
	相手審判	南 朋範 氏(神奈川)	
ミーティング内容		主任	高野 晃平 氏(近畿)
<p>プレゲームカンファレンスでは、前日に行われた1回戦での戦い方を分析し、対戦チームがどのような戦術で試合を進めるか確認し、特にディフェンス面での手の使い方や体の使い方について話し合いました。</p> <p>丸紅ベンチがリバウンドの場面で取り上げられたファウルについて納得していないそぶりが見られたので、その部分は特に注意すること、日立笠戸のハンドチェックも頭の中に入れておくよう相手審判と確認しました。</p> <p>メカニックについては、自分のプライマリーに責任を持つことと3番エリアの分担を意識しながら試合中に修正を加えることを共通認識としました。</p> <p>実際に試合を担当して、いくつか取り上げなければならない場面がありましたが、概ね試合にアジャストしていたとの評価を受けました。ただし、両チームのファウル数に偏りがあったため(日立の方が明らかに多かった)その部分については、日立に過度なストレスを与えないように調整するのもテクニックの一つであるとの話をいただきました。</p>			
全体の感想			
<p>今大会に参加して、プレゲームカンファレンスの重要性を改めて認識しました。</p> <p>Bリーグなどを担当するトップレフェリーは、可能な限り選手個々の特徴の把握に努め、考えられるリスクについてシュミレーションをしていました。このことはレフェリーのランクに関係なく実施すべきものなので、今後実践していきたいと思います。</p> <p>今大会は、最後のJICであり、実業団の全国大会は残すところ2月の選手権大会のみとなりました。今後は、関東実業団選手権で実績を残し、実業団最後の選手権大会にノミネートされるよう取り組んでいきたいと思います。</p>			